

令和6年度(2024年度) 学校評価総括表 伊丹市立西中学校

教育目標	自信と誇りを持ち自らの未来を切り拓く生徒の育成
重点目標	(1)確かな学力の育成(自ら学ぶ力を高める) (2)生徒の主体的な成長・発達を「支える生徒指導」への転換 (3)授業力向上に向けた研究推進 (4)教育活動全体を通じた道徳教育の推進 (5)支え合い高め合う集団作りの推進 (6)特別支援教育の充実と合理的配慮の推進 (7)学校運営協議会やPTA、地域との連携に基づいた開かれた学校作りの推進

主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰ひとり取り残さない取り組み ③学校・家庭・地域の連携	・基礎的、基本的な知識、技能を習得させる。 ・授業力の向上と授業改善を目指した校内委員会を実施する。 ・全国学力学習状況調査等の資料を活用する。 ・小中連携を推進する。	・全教員が指導案を作成し、生徒が主体的に学ぶ場を設定した提案授業を行う。 ・タブレットを活用して小テストやドリル学習などを繰り返し行い、基礎学力の定着に努めて、よりわかりやすい授業を展開する。 ・週末課題を事前に知らせることで、計画的に家庭学習に取り組む習慣を身につけさせる。 ・学力保障の場として、長期休暇中や定期テスト前の学習会を実施する。 ・自分の意見をまとめ、発表する機会を増やす。(ペア、4人班等場面設定の工夫) ・全国学力学習状況調査の分析結果を学校通信に掲載する。 ・校区内の小学校と互いの授業を参観する。	・生徒アンケートにおいて、「授業では学習内容が理解できて楽しい」の評価を80.0%以上にする。 ・生徒アンケートにおいて、「自分は授業で積極的に発表しようとしている」の評価を60.0%以上にする。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は学力の向上に取り組んでいる」の評価を85.0%以上にする。	B	・生徒アンケートにおいて、「授業では学習内容が理解できて楽しい」の評価は80.0%以上だった。 ・生徒アンケートにおいて、「自分は授業で積極的に発表しようとしている」の評価は50.0%を下回った。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は学力の向上に取り組んでいる」の評価は85.0%以上だった。 これらのことから、生徒は授業を理解内容をできて楽しい、保護者は学力向上への取り組みが充実していることと捉えているが、生徒は積極的に発表できていないことがわかる。また、どの一因として考えられるのが、教師アンケートにおいて、「表現力を高める取り組みに努めていない」と解答した割合が約30.0%あることである。	間違えても良い、誰でも発表しやすいという雰囲気を作る。そのために、発表前に友達と考えを共有する場面を設けるなどし、発表までのステップをつくる。 発表という言葉は、挙手をして全体で意見を述べることと捉えている可能性があるが、ペア学習や、4人班で意見を述べることも、大切な意見発表の方法である。それらの教師側が機会を積極的に設けることで、現状の改善につながると思う。	・発表までのステップをつくるという部分については生徒にとって良い方法だと思う。 ・授業ではの部分で80%以上になったことは評価できる。 ・積極的に発表しようとしているは昨年同様50%を下回っている。ポジティブ行動支援を取り入れてどう変わっていくかを注視していきたい。 ・具体的施策に対応する成果と課題、改善策の記載を盛り込んだ方が良いと思う。 ・1分間スピーチ等を取り入れ人前で話すことになることが大切である。 ・今なお生徒側の感覚として「教えられる授業」として感じているのではないか。4人班等での意見発表の機会を作る等、教師側も試行錯誤されていると思うがさらに興味の湧く授業や真実を理解する授業を教師と生徒で作り上げることが必要である。
	新しい時代に対応した教育の推進 ①情報活用能力の育成 ②言語活動の充実 ③デジタル化の促進	・思考力、判断力、表現力を育てる授業を展開する。 ・学習の手引き等を活用し、適切に評価を行う。 ・タブレットなどICT機器を適切に使用する。	・授業の中でスクールタクトを使って、表現する機会を積極的に作る。 ・言語活動の機会を増やし、スピーチ等で情報を活用しつつ表現力を高める。 ・ICT機器の研修を行い、教師がICT機器を積極的に使えるように促す。	・職員アンケートにおいて、「ICT機器を積極的に活用した授業作りに努めている」の評価を90.0%以上にする。 ・生徒アンケートにおいて、「様々な場面を通して、表現力を高める機会をつくっている」の評価を90.0%以上にする。 ・生徒アンケートにおいて、「授業中タブレットなどの機器を使うことで、授業がわかりやすくなった」の評価を90%にする。	B	・今年度は71.0%の職員が「ICT機器を積極的に活用した授業作りに努めている」と回答した。昨年度は80.0%の達成率であったが、今年度はスクールタクトの切り換えがあったため使いづらい時期があったためだと考えられる。 ・今年度は85.7%の生徒が、様々な場面で表現力を高める機会があるとしている(前年度87.0%)。ICT機器を通して、さらに表現力を高める機会を設ける必要がある。	・ICT機器機器の研修や、研究授業を通じてタブレットの使用事例を共有する機会を積極的につくる。 ・言語活動の機会を増やし、普段の授業でも取り入れたり、表現など意識する点を伝えながら活動させる。 ・まなびポケットを活用できるように研修を行い、教師が活用方法を理解した上で生徒に指導できるようにする。	・タブレットなどを使用して今後も生徒が楽しめる授業を期待する。 ・ICT機器を活用した授業というのは生徒にとっては興味深い授業であるのではないか。様々な情報や新しい情報を生徒に与え膨大な情報量を教師や生徒で共有・活用して新たな日本の人材を育成していただきたい。学校側がオールドメディア化してはならない。
	「豊かな心」の育成 ①道徳教育の推進 ②いじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けての取り組み ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	・いじめ問題への対応力の向上に取り組む。 ・生徒との信頼関係を構築し、充実した学級経営を行う。 ・不登校、長欠生徒に対して、学校全体で組織的な対応を行う。 ・体育大会や文化祭、トライやる・ウィーク等の行事において、生徒に自信をつけさせる有効な機会として計画立案を行う。	・自己有用感や自己肯定感、自尊感情を高められるような取り組みを授業で実践するとともに、継続していじめに関する授業を道徳科で行う。 ・毎学期、教育相談週間を設け、生徒の声に耳を傾けたり、学校生活アンケートやいじめ調査アンケートを行ったりして、いじめの早期発見ができるよう実態把握を行う。 ・報告・連絡・相談体制を確立し、早期対応ができるように組織的に動く。 ・生徒指導委員会(週に1回)・いじめ防止対策委員会(学期に1回)・不登校対策委員会(月に1回)を必ず実施し、情報共有を行うとともに、生徒理解のための取り組みを行う。 ・行事検討委員会・体育大会実行委員会・文化祭実行委員会・トライやる推進委員会を実施し、生徒主体となる活動計画を立案するとともに、生徒の自主性を育成できるように方向づける。	・生徒アンケートにおいて、「自分を大切にすることや、他の人への思いやり、いじめを許さないことについて教えてもらっている」の評価を95%以上にする。 ・生徒アンケートにおいて、「学校へ行くのが楽しい」の評価を85%以上にする。 ・生徒アンケートにおいて、「学校行事に取り組む、達成感を感じることができた」の評価を90%以上にする。 ・生徒アンケートにおいて、「先生は悩みや不安なことについて相談にのってくれる」の評価を85%以上で維持する。	B	・Q7「学校へ行くのが楽しい」という生徒の割合が昨年度より2.6ポイント上昇しているが、目標の85%には到達しなかった。 ・Q9「先生は悩みや不安なことについて相談にのってくれる」という生徒の割合が86.5%となり昨年度より4.5ポイント上昇し、目標を達成した。 ・Q8「学校行事に取り組む、達成感を感じることができた」という生徒の割合が92.1%となり、昨年度より2.1ポイント上昇し、目標を達成した。 以上の結果より、一定の指導の効果を得ることができた。昨年度、課題であった職員と生徒との関係については、今年度は改善が見られた。引き続き、生徒一人ひとりの対応を丁寧に行っていく必要がある。	・現在の取り組みを継続し、いじめに関する授業を道徳科で行っていく。 ・職員間で報告、連絡、相談体制をさらに強化し、SSWやSCだけでなく、外部の関係機関とも連携して生徒一人ひとりの対応について考えていく。 ・学校生活アンケート、いじめ調査アンケートを行ったらすぐに聞き取りを行い、早期発見、早期対応ができるように迅速に行動を行う。 ・毎週の生徒指導委員会や毎月の不登校対策委員会、毎学期のいじめ防止対策委員会で情報交換を密に行い、未然防止、早期発見、早期対応を丁寧に行えるようにしていく。 ・生徒会担当や行事担当、体育大会や文化祭の実行委員会と連携し、日々の学校生活において生徒主体の活動を行い、生徒が充実感や達成感を感じ取れるようにする。	・アンケート項目全てにおいて少しずつであるが上昇してきているので評価できる。 ・地道な日頃の取り組みが大切であるので今後も継続して行っていただきたい。 ・不登校やいじめの件数について具体的な現在値と目標値を設けると良いのではないかと。 ・自尊感情を高めるための取り組みをしっかりしていただき、心豊かな時代の日本人としての誇りを取り戻す教育を期待する。

令和6年度(2024年度) 学校評価総括表 伊丹市立西中学校

教育目標		自信と誇りを持ち自らの未来を切り拓く生徒の育成						
重点目標		(1)確かな学力の育成(自ら学ぶ力を高める) (2)生徒の主体的な成長・発達を「支える生徒指導」への転換 (3)授業力向上に向けた研究推進 (4)教育活動全体を通じた道徳教育の推進 (5)支え合い高め合う集団作りの推進 (6)特別支援教育の充実と合理的配慮の推進 (7)学校運営協議会やPTA、地域との連携に基づいた開かれた学校作りの推進						
主要 施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
学校 教育	「健やかな体」の育成 ①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の促進	・部活動のあり方を検討するとともに、指導の創意工夫及び改善に取り組む。 ・体育の授業を通して、運動やスポーツの習慣化及び体力テスト種目の知識と技術を習得させる。 ・健全な食育を推進する。	・部活動についてのアンケート項目を増やし、保護者と生徒の部活動に対する考えを把握する。 ・保健だよりを活用し、健康の保持増進に感心を持たせる。 ・委員会活動等を活用し、規則正しい生活についての啓発を行う。 ・保健体育の授業で毎時間補強運動、柔軟を実施し、体力の向上と怪我防止につなげる。 ・スポーツテスト、タイムトライアル実施時には、学年や性別に応じて基準となる記録を示し、意欲向上につなげる。	・部活動についてのアンケート項目を増やす。 ・保護者及び生徒における保健だよりの認識を90.0%以上に維持する。 ・生徒アンケートにおいて、「早寝早起き朝ご飯、規則正しい生活を心がける」の評価を95%以上にする。 ・スポーツテストの伊丹市の目標指数を昨年より更に上回るために体育の授業や課題活動を計画的に進める。 ・熱中症対策について、授業及び部活動で呼びかける。	B	・年度途中に部活動についてのアンケートを実施できなかったため、保護者と生徒の部活動に対する考えを把握できなかった。 ・保健だよりの認識について、保護者が95.9%、生徒が93.0%で、目標は達成できたが、昨年度を下回っている。 ・生徒の「早寝早起き朝ご飯、規則正しい生活を心がける」の割合が85.5%であったため、目標の95.0%には及ばなかったが、昨年度を0.7%上回っている。 ・全国体力調査において、種目によって昨年度よりさがっていた。総合的には全国平均よりも上回った。 ・WBGT計を活用し、熱中症の危険性について、常に意識していた。必要に応じて活動内容を変更した。	・部活動がよりスムーズに地域に移行できるように、地域・保護者と連携して進めたい。 ・保健だよりの認識について、今後も継続して90%以上を維持していきたい。 ・「早寝早起き朝ご飯、規則正しい生活を心がける」の割合を向上させるために、家庭と学校が協力して規則正しい生活ができるように、三者懇談等で促していく。 ・体力テストについて、体育の授業や課題活動を計画的に進め、今後も継続して向上できるように努めたい。 ・引き続きWBGT計を活用し、熱中症予防に努めていく。	・地域がどれぐらい貢献できているのか、また学校側に新しいご負担を押しつける形にならないかしっかりと議論を積み重ね新しい受け皿を構築していくことが重要である。 ・体力向上については課題活動を進めていく中で向上につながればよいと思う。 ・早寝早起きの数値はなかなか高い目標だが生活の基礎になることなので一番大事なことである。今後も学校と家庭地域が連携を図りアピールしていくことが必要である。 ・保健だよりや保健室前の掲示ともに工夫されているので広く周知すべきである。 ・部活動は来年度から大きく変わるのでアンケート内容や方法を変える必要がある。 ・年々気温が上がっているため夏の熱中症予防に気をつけるとともに冬の暖房による熱中病が増加してきている。 ・部活動は時代の流れとして受け止め生徒の基礎体力維持または向上のための取り組みをさらに期待する。昨今の健康ブームを捉え生徒への食育はさらに必要と考える。

令和6年度(2024年度) 学校評価総括表 伊丹市立西中学校

教育目標		自信と誇りを持ち自らの未来を切り拓く生徒の育成						
重点目標		(1)確かな学力の育成(自ら学ぶ力を高める) (2)生徒の主体的な成長・発達を「支える生徒指導」への転換 (3)授業力向上に向けた研究推進 (4)教育活動全体を通じた道徳教育の推進 (5)支え合い高め合う集団作りの推進 (6)特別支援教育の充実と合理的配慮の推進 (7)学校運営協議会やPTA、地域との連携に基づいた開かれた学校作りの推進						
主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
	教育相談・支援体制の充実 ①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・ スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実	・キャリアパスポートなどを積極的に活用する。 ・個に応じた進路指導を充実させる。 ・SC,SSW,不登校支援員など関係機関と連携を図る。 ・不登校対策委員会の活性化を図る。	・キャリアパスポートを年に3回(年度当初、中間、年度末)記入させ、それを基に生徒への声かけを行う。必要に応じて、伊丹市キャリア学習ノートを活用する。 ・進路に関する情報を生徒や保護者に適宜、発信する。 ・学年に応じた進路学習を行うとともに、三者懇談や教育相談で個の特性を理解した進路指導を行う。 ・不登校や家庭環境などに問題を抱えている場合、生徒を積極的にSC・SSW・不登校支援員や関係機関につなぐ。 ・不登校対策委員会を月に1回行い、学校全体で情報共有をする。	・生徒アンケートにおいて、「学校で卒業後の進路について教えてもらっている」の評価を85.0%以上にする。 ・生徒アンケートにおいて、「学校で職業のことや働くことの大変さ、大切さについて教えてもらっている」の評価を90.0%以上にする。 ・生徒アンケートにおいて、「先生に進路のことや学校全般にわたり相談することができる」の評価を80.0%以上にする。	B	・生徒アンケート「学校で卒業後の進路について教えてもらっている」の割合は、85.0%に達している。 ・生徒アンケート「学校で職業のことや働くことの大変さ、大切さについて教えてもらっている」の割合は、92.0%に達している。 ・生徒アンケート「先生に進路のことや学校全般にわたり相談することができる」の割合は、1年生66.0%、2年生77.0%、3年生87.0%、平均78.0%となった。 ・保護者アンケートでは、進路についての情報発信や相談の機会について学年間の格差が見られた。	・町の先生による講演会や学年集会でのキャリア教育を通じて、夢をもつことの大切さや、仕事のやりがいについて伝えていく。 ・生徒アンケートで「先生に進路のことや学校全般にわたり相談することができる」の割合は、他項と比べて低かったことから、学年に応じた進路情報についても発信に努めていく。 ・保護者アンケートで、「学校は進路についての情報を適切に発信している」と答えた割合は、学年によって差があるため、学年に応じた進路情報について、有効な発信方法を検討する。	・進学や就職における学校側と家庭側の視点がかけ離れていると感じる。今後、学校と家庭が連携を図り話し合いを重ねながら理解を深めていくことが重要である。 ・まずは教師自身がやりがいと楽しそうにしているかが第一である。一番身近として教えられる存在としてプロとして、また生徒に先生になりたいと思わせるかが大切である。 ・各学年ごとに進路相談ができる機会を増やしてほしい。 ・保護者においては1学年から進路問題への不安があると思われるため、あらゆる情報提供を数多く行うことが望ましいと思われる。但し教師側の生徒への寄り添い感を感じられるので引き続き学校側の取り組みに期待する。
	特別支援教育の推進 ①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実	・入学時の情報の引継ぎと実態把握に努め、教育的ニーズに応じた指導、支援を継続させる。 ・個別の指導計画を作成し、職員間の共通理解を図る。 ・特別支援教育推進委員会の活性化を図る。	・小中連絡会の活用を通して、小学校との情報交換を密に行う。場合によっては事前に保護者と協議する。 ・サポートファイルを利用しながら、個別の指導計画を作成し、職員間の共通理解を図る。支援員との連携を深めるため、特別支援の各学年担当が積極的に啓発を行う。 ・特別支援教育推進委員会を週1回開催し、情報交換や実態把握に努め、担当でより良い支援方法について検討する。	・職員アンケートでは支援員との連携が84.0%以上がとれていると回答しているが、各学年担当の更なる啓発により「よく当てはまる」の割合をまずは40.0%に上げる。 ・サポートファイルの活用も90.0%程度なされている回答であったが、各学年担当の更なる啓発により「まったくあてはまらない」の割合を0%に近づけたい。 ・特別支援教育推進委員会の開催方法について検討する。	B	・支援員については原則、国語・数学・英語の授業に入っているため、対象の教科以外の教師は支援員との情報共有ができていなかった可能性がある。 ・サポートファイルの活用に関しては、最低でも学期に1回は共有しており、引き続きサポートファイルを活用して、情報を共有していきたい。 ・特別支援教育推進委員会については週1回行われているため、巡回相談などについて迅速に検討することできている。	・支援員からの情報提供を待つのではなく、職員1人1人が気になる生徒の様子を積極的に聞きに行く姿勢を持つ環境を作っていく。 ・サポートファイルについては、引き続き、活用を充実させていく。 ・特別支援教育推進委員会についても、引き続き週1回行い、報告・連絡・相談をできる機会を作っていく。	・細やかな対応を行っている。一人ひとりの対応が違いため支援員の理解や他の職員との情報共有や協力がとても大切である。難しいと思いますが気持ちよくフォローしあえる信頼関係の構築が重要である。 ・進路支援の更なる充実を希望する。 ・西中における特別支援教育への取り組みは評価する。
	教職員の資質向上 ①研修等の充実	・積極的な研修参加による資質向上を目指す。 ・生徒の実態を踏まえ授業改善をはかる。 ・主体的に考え、課題解決を図る実践的な学習活動などを実施する。	・提案授業をおこない、教科内で連携をとったり、学年で空きコマを用いて授業を参観する。 ・参観シート等を活用し、授業改善につなげる。 ・本時の目標・本時の振り返りを必ず実践し、生徒が授業の見通しや振り返りができるようにする。	・生徒アンケートにおいて、「先生はわかりやすくするために教え方を工夫している」について、よくあてはまるを60%以上にする。 ・生徒アンケートにおいて、「先生は、シラバスを活用するなど、事前に評価の仕方を説明し、学習の成果を適切に評価している」の評価を90%以上で維持し、さらなる向上を図る。 ・保護者アンケートにおいて、「先生は学習の成果を適切に評価している」の評価を90%以上で維持する。 ・教師アンケートにおいて、「校内授業研究会など研修に積極的に参加するなど、授業方法について検討している」の評価を90%以上を目指す。	B	・わかりやすくするための工夫については結果58/8%であり、達成には至らなかった。授業者が授業改善に取り組み授業スキルを高めていくことが急務である。 ・評価方法等の周知については結果92.5%であり、目標値を超えることができた。 ・授業者が適切に評価しているという質問については、結果86.6%であり、目標値に届かなかった。引き続き生徒や保護者への丁寧な説明をしていく必要がある。 ・研修に対する意識の部分では目標値を越え93.5%であった。今後も引き続き研修方法や内容について精査していくとともに研究を推進していく必要がある。	・改善案として、ICT機器を今まで以上に活用し、さらに理解しやすい授業を行う。また、思考ツールを活用して、考える力も育成し、授業の充実をはかる。 ・評価方法を検討し、研修などでよりよい評価方法を開発する。評価のもととなる、授業の「めあて」の提示を徹底し、生徒にわかりやすい評価を行う。	・授業者が授業改善に取り組み授業スキルを高めていくことは重要であるが一方で多忙化が言われている中でなかなか厳しいのではないかと思います。目標を段階的に設定し進めていくことがいいのではないかと思います。 ・授業改善に具体的にどのように取り組んでいるのか保護者へ学校通信等を活用して周知知ってもらわなければならないか。 ・保護者への理解と協力がもたらえる雰囲気づくりが必要である。 ・PBSの活用に期待する。 ・授業をより良くするための研修や学校内での連携という点での取り組みは評価する。教師側との交流がなかなか無い中、資質向上という観点から先生方には生徒への教育は未来の日本を育てているとの認識を持っていただき先生方自身が日本の素晴らしさを再認識し生徒へ伝えていただきたい。今の日本人にこそ愛国心という言葉は必要である。それを教えるのも学校の責務と考える。

令和6年度(2024年度) 学校評価総括表 伊丹市立西中学校

教育目標	自信と誇りを持ち自らの未来を切り拓く生徒の育成
重点目標	(1)確かな学力の育成(自ら学ぶ力を高める) (2)生徒の主体的な成長・発達を「支える生徒指導」への転換 (3)授業力向上に向けた研究推進 (4)教育活動全体を通じた道徳教育の推進 (5)支え合い高め合う集団作りの推進 (6)特別支援教育の充実と合理的配慮の推進 (7)学校運営協議会やPTA、地域との連携に基づいた開かれた学校作りの推進

主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
教育環境の整備・充実	学校を支える組織体制の整備 ①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築	・定期的に情報発信や意見交換を行うなど、CS委員やPTA等と連携を図る。 ・オープンスクールやホームページ等を通して、保護者や地域に教育活動を公開するなど、開かれた学校づくりに努める。	・学校通信、学年通信の内容をより魅力的なものにし、発行を積極的に行う。 ・ホームページで生徒の様子がリアルにわかるように更新をこまめに行う。 ・緊急時の連絡をホームページと西中PTA緊急連絡メールを使って発信する。 ・オープンスクール等でPTAや地域の方々と教職員をお互いに顔を合わせる機会を増やし、情報を密に交流する。	・情報発信を継続し、保護者アンケートにおいて、「学校通信や学年通信などをよく読んでいる」の評価を90.0%以上、「時々ホームページにアクセスする」の評価60.0%以上を目指す。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに応えている」の評価を90.0%以上にする。 ・オープンスクールで地域の方等、幅広く参加を呼びかける。	C	・「学校通信や学年通信などをよく読んでいる」の評価は86.2%であった。 「時々ホームページにアクセスする」の評価は32.9%であった。 ・「学校は保護者の願いに応えている」の評価は86.2%であった。	・今まで、GoogleFormやGoogleClassroom、ホームページなど様々な方法で家庭への連絡を行っていたが、それらを学びポケットに統合していく。 ・アンケートに、「時々ホームページにアクセスする」の項目を検討し、「学びポケットを確認している」という項目を加える。	・日頃の生徒の様子が垣間見れるようHPに力を入れて行く必要があるのではないか。 ・学校通信やHP等を活用して保護者への情報発信はされていると思うが地域住民に対しても更なる西中の素晴らしい点をアピールしても良いと思う。過去から地域住民が持つ西中生徒の印象は高評価であることから西中の伝統を継続するためにも積極的に西中をアピールし、地域との連携を図っていく方がいいと考える。先生方のWLBは必要であるが西中は地域からも注目されていることも事実である。
	安全・安心な教育環境の充実 ①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進	・各教科や体験活動等を通して災害から生命を守るため、主体的に行動する力を育成する。 ・地域、警察、関係機関と連携した学校安全の取り組みを充実させる。	・授業中で災害について学ぶ機会を作り、避難訓練を通して危機意識を育て、主体的で深い学びを取り入れる。 ・学期毎の登校指導を実施することで登校時の生徒の安全を確保している。 ・校門の改修や防犯カメラの強化により、防犯対策の強化することができた。 ・学校日より、学年だよりの発行や、ホームページを通して避難訓練の様子を知らせる。 ・月に1回の安全点検を確実にし、施設整備維持保全に努めている。	・生徒アンケートの回答結果は90.0%以上を達成しているため、引き続き90.0%以上にする。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は防災意識を高める取り組みを行っている」の評価を90.0%以上にする ・教師アンケートにおいて、「問題行動が起きたとき、組織的かつ迅速に対応できる体制が整っている」の評価を90.0%以上にする。	A	アンケート結果では、達成目標に対して全ての項目で、達成することができた。また、年2回の避難訓練が実施でき、後期についてはグラウンドの改修工事があり避難場所の変更等があったが、スムーズに避難することができた。しかし、交通ルールやマナー、清掃への取り組みではどの立場においても、3)あまりあてはまらない 4)まったくあてはまらないの回答が多く、課題であると感じた。	実際に改修工事などで災害が起きた場合の避難場所や経路について日々の学校生活の中で、生徒や保護者に対して周知徹底を行う必要がある。 一斉下校の場合は東門を活用するなど検討する必要がある。交通安全の安全指導も全学年が毎年行えるようにし、新しい交通ルールもできたので登下校の際の、ルールやマナーを再度確認し、取り組みを増やしていく必要がある。	・自分からあいさつをする、周囲がルール違反していても自分はしないという意識を持つよう主体的に動けるようになってほしい。 ・継続的な取り組みを期待する。 ・部活動の地域移行により自転車の利用が増加するのでルールやマナーだけではなく伊丹市内の自転車事故多発場所を確認する事が大切である。 ・防災意識及び安全への取り組みについては評価する。交通ルールに関しては前述したが、西中生は地域からも注目されていることから引き続き指導の徹底を期待する。

学校関係者評価総括
 ・生徒が明るく元気に通う西中学校そのものが地域にとって誇りですので一歩ずつ新しい取り組みが実ることが良いと考えている。全体的に自己評価が厳しく評価されていると感じた。

次年度に向けた重点的な改善点
 ・保護者と学校、学校と地域のつながりは強く感じますが地域と保護者の接点やかかわりが弱いと感じるので様々な課題があると思います。さらに学校や家庭、地域と連携していくことが今後の課題であると考えます。

自己評価の基準 A:目標を上回った B:目標どおりに達成できた C:目標をやや下回った D:目標を大きく下回った